

茨木市立水尾小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」設問
- ・もっとも正答率の低かった設問
「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」設問
- ・もっとも無解答率の高かった設問
「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問と、「(つみ重ね)を漢字を使って書き直す」設問
- ・もっとも無解答率の低かった設問
「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」設問と、「資料を用いた目的を理解する」設問

分析

- ・ 全国平均と比較して、全ての領域、全ての問題形式において「概ね良好な結果」であった。
- ・ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」においては全国平均をやや上回っているが、「書くこと」と「読むこと」に関しては、全国平均をやや下回っている。
- ・ 問題形式別では、「選択式」や「短答式」では平均をやや上回り、「記述式」では全国平均をやや下回っている。ただ、「記述式」では、平均と遜色無いとはいえ、正答率は低く、今後も国語に限らず様々な授業で「書く力」の向上を目指す取組みを継続していく必要がある。
- ・ 無回答率は若干全国を上回っている。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- ①A数と計算 良好な結果であった
- ②B図形 良好な結果であった
- ③C測定 良好な結果であった
- ④C変化と関係 良好な結果であった
- ⑤Dデータの活用 良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 良好な結果であった
- ②短答式 良好な結果であった
- ③記述式 良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
「棒グラフから、数量を読み取る」設問
- ・ もっとも正答率の低かった設問
「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」設問
- ・ もっとも無解答率の高かった設問
「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」設問
- ・ もっとも無解答率の低かった設問

6つの設問

- 「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」
- 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」
- 「条件に合う時刻を求める」
- 「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す」
- 「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる」
- 「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述する」

分析

- ・ 全ての領域・問題形式で平均正答率が全国平均を上回った。学校全体で問題解決型学習に取り組んできた成果と考えられる。
- ・ 領域別では、「数と計算」、「図形」の問題に比べ、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の正答率が高くなっている。
- ・ 全国平均を上回ってはいるが、4問ある記述式の問題のうち、2問の正答率が他の問題に比べて低くなっている。普段の授業の中で、自分の考えを一人ひとりが書けるように声かけをしたり、書く時間を確保したりするなど、記述する機会を大切にしていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・数年前に全国平均を下回った年が続いたが、前回（令和元年度）はわずかに全国平均を上回り、今年度は更に平均を上回った。
- ・算数に関しては、平成30年度より大幅に正答率が高くなった令和元年度よりも正答率が上がり、全国平均も大きく上回った。
- ・この数年続いていた国語の正答率の低下傾向は治まり、大幅に上がって全国平均を上回った。
- ・無解答率はここ数年全国平均より高かったが、4年ぶりに全国平均を下回った。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・総合的に考えると平成25年以降減り続けていた高位層は令和元年度に改善し、今年度は更に全国平均を上回るようになった。また、低位層についても格段に割合が減っている。
- ・教科別で考えると、国語の高位層の割合が全国平均を僅かに下回り、低位層の割合は以前より大幅に減ってはいるものの、平均を僅かに上回っている。算数では低位層が目に見えて減っている。
- ・低位層とエンパワー層の推移は似ており、エンパワー層の底上げが学力の底上げにつながると考えられる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

南中ブロックスタンダードを基本とした授業のユニバーサルデザイン化の実践

- ・落ち着いた学習に取り組める環境づくりのために、教室の環境整備を行い、授業の準備をきちんと整えるようにする。
- ・チャイム着席や授業のはじめとおわりのあいさつなどの授業規律を大切にす。
- ・どの子も分かる、学び合いのある授業づくりのために「課題」・「めあて」・「学習の見通し」・「自力解決」・「学びの振り返り」など、学習時間の構造化を推進する。
- ・学習の協働化・共有化を図るために、ペアやグループ活動など、友だちと話し合う時間を設定し、互いの意見を交流する中で考えが深まるようにしていく。
- ・視覚教材や具体物を活用し、体験的に学べる授業づくりを行う。

1～6年までの系統立てた学習活動の推進

- ・校内研修において、教職員間で取組みの共通理解を図り、授業力の向上を目指していく。

児童が安心して学習できる居場所づくり

- ・学力向上に向けて、普段の人間関係づくりや集団づくりを大切にしていく。（みずおの「み」の「みんな仲良く」）
- ・一人ひとりを大切にす人権教育を推進していく。

基礎学力の充実

- ・習熟度別指導や少人数分割指導を行うと共に、スクールサポーター等との連携や、授業中の人的支援の有効な活用を進め、個別に支援できる体制づくりを継続して行っていく。
- ・基礎基本の反復練習を重ねるなど、習熟できずに終わってしまう児童への細やかな対応や取組みを行う。
- ・「宿題がんばり週間」などを活用し、家庭学習の定着を図るとともに、家庭との連携も強めていく。
- ・毎学期の「学び方をふりかえろう（自己評価）」で、自分の学習への向き合い方を見つめ直させることで学ぶ意欲を高めさせ、家庭へも個人懇談等で啓発する。

問題解決型の学習

- ・主体的に課題に取り組む、思考力・判断力・表現力を育めるような授業づくりを行っていく。
- ・考えをつなぎ、深めるために、ペアやグループでの交流、全体での練り上げを大切にす。

ノート指導

- ・学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導を行う。
- ・授業の最後の振り返りを自分のことばでまとめることで、学習の自己評価を行うとともに、「書くこと」にもつなげていけるようにす。

読書活動の充実

- ・「読書が好き」「楽しい」と実感することで「読むこと」への意欲を高めていく。そのために「朝の読書タイム」や「読み聞かせ」「絵本のひろば」などの取組みを継続していく。

学習意欲の向上

- ・無解答率を減らしていくために、「何事にも前向きに取り組む」「間違えることをおそれず挑戦してみる」「諦めずに問題と向き合う」ことができるよう、常日頃から声をかけ、児童の意欲を高めていく。